

出願の際、「対面式」「非対面式」のどちらかを選択してください。「非対面式」受験の詳細については、7月中に本学ホームページで発表します。
(指揮のみ「非対面式」は実施しません)

③ 作曲指揮専攻 ※一般選抜（B日程）では、募集しません。

作曲「芸術音楽コース」

入学試験科目

1. 外国語（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語より1科目選択）

大学入学共通テストの成績を利用する。出願者は大学入学共通テストの「外国語」を必ず受験すること。

「英語」は筆記とリスニングの双方を課す。

※上記に代わるものとして、以下のいずれかの資格を利用できる。

詳細は①一般選抜概要 p. ii を参照のこと。

- ・ケンブリッジ英語検定
- ・実用英語技能検定
- ・GTEC(アセスメント版を除く)
- ・IELTS(Academic)
- ・TEAP
- ・TEAP CBT
- ・TOEFL iBT®

2. 楽典

3. 新曲視唱 8小節程度の旋律を1曲

別室で1-2分間予見したのち、試験室においてピアノによる主和音、開始音を聞き、無伴奏で視唱する。

4. 聴音 旋律聴音（8小節程度）・・・各専攻共通1題および専攻別1題

和声聴音・・・大譜表による四声（密集）、8小節程度

[問題例] G dur ト長調 $\frac{2}{2}$ 拍子 8小節



5. 副科実技（ピアノ）

(1) J. S. バッハ『平均律クラヴィーア曲集』第1巻、第2巻より任意の1曲（プレリュードとフーガ）

(2) 自由曲1曲（自作品は不可）

※ (1) (2) 計2曲で10分以内。暗譜。

6. 専攻実技

(1) 和声（イ）転調および非和声音を含むバス課題（2時間）

（ロ）転調および非和声音を含むソプラノ課題（2時間）

(2) 作曲 与えられた動機による楽曲の創作（5時間）

(3) 面接 10分程度（作曲を志した動機等について質問します）

作曲「ミュージック・メディアコース」

入学試験科目

1. 外国語（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語より1科目選択）

大学入学共通テストの成績を利用する。出願者は大学入学共通テストの「外国語」を必ず受験すること。

「英語」は筆記とリスニングの双方を課す。

※上記に代わるものとして、以下のいずれかの資格を利用できる。

詳細は①一般選抜概要 p. ii を参照のこと。

- ・ケンブリッジ英語検定
- ・実用英語技能検定
- ・GTEC(アセスメント版を除く)
- ・IELTS(Academic)
- ・TEAP
- ・TEAP CBT
- ・TOEFL iBT®

2. 楽典

3. 新曲視唱 8小節程度の旋律を1曲

別室で1-2分間予見したのち、試験室においてピアノによる主和音、開始音を聞き、無伴奏で視唱する。

4. 聴音 旋律聴音（8小節程度）・・・各専攻共通1題および専攻別1題

和音聴音・・・高音部譜表による三和音、4小節程度

[問題例] a moll イ短調 $\frac{2}{2}$ 拍子 4小節



5. 専攻課題

(1) 伴奏付け（譜面作成とそのピアノ演奏）

- ① 与えられた旋律に対して「伴奏／コード付け」を行う。
(1時間。譜面作成時、備え付けのキーボード使用可)
- ② ①で「伴奏／コード付け」した結果を、(対面式は)面接時にピアノで演奏する。

(2) 和声（2時間）

- ① 転調を含むバス課題。
- ② 簡単な転調および非和声音を含むソプラノ課題。
※①バス課題から着手のこと。試験開始後1時間で①の答案を回収する。

(3) 小論文（1時間）

当日出題される課題について、簡単な文章を書く。

(4) ピアノ演奏

自由曲または自作曲のピアノ演奏。楽曲の選択は、クラシック、ポピュラー等ジャンルを問わない（ピアノ独奏のみ。伴奏用音源等は使用不可）。

(注1参照のこと)

(5) 面接

作曲に対する意識、今後、作曲家となるべく努力する姿勢、意識を問う。特別な音楽的能力を有する者は、(6)自作曲の評価とは別に事前に映像を提出し、面接でアピールすることができる。

(注2参照のこと)

(6) 自作曲の評価

事前に自作曲のデモ音源、楽譜(スコア等)を提出し、アピールすること(注3参照のこと)

注1 ピアノ演奏について

- ① 基本的なピアノ演奏能力を知ることが目的であるため、注意して楽曲を選ぶこと。曲名、作曲者名は、専攻別曲目記入票に詳しく正確に記入すること。
- ② 自作曲のピアノ演奏を行う場合は、(6) 自作曲の評価で提出する曲とは異なる作品にすること。

注2 面接時のアピールについて

アピールしたい受験者は、事前に楽器演奏の映像を提出すること（ライブ、コンサート等の映像可）。複数曲可。ただし、各曲の長さは5分未満とする。映像内で受験者本人を確認できるものとする。

注3 自作曲について

複数曲可。ただし、各曲の長さは5分未満とする。楽曲自体を考察することが目的であるため、録音状態、使用機材等は問わない。楽曲のスタイルは自由だが、楽曲のデモとして十分な状態を満たすこと。

指揮（「対面式」のみ実施）

入学試験科目

1. 外国語（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語より1科目選択）

大学入学共通テストの成績を利用する。出願者は大学入学共通テストの「外国語」を必ず受験すること。

「英語」は筆記とリスニングの双方を課す。

※上記に代わるものとして、以下のいずれかの資格を利用できる。

詳細は①一般選抜概要 p. ii を参照のこと。

- ・ケンブリッジ英語検定
- ・実用英語技能検定
- ・GTEC(アセスメント版を除く)
- ・IELTS(Academic)
- ・TEAP
- ・TEAP CBT
- ・TOEFL iBT®

2. 楽典

3. 新曲視唱 8小節程度の旋律を1曲

別室で1-2分間予見したのち、試験室においてピアノによる主和音、開始音を聞き、無伴奏で視唱する。

4. 聴音 旋律聴音（8小節程度）・・・各専攻共通1題および専攻別1題

和声聴音・・・大譜表による四声（密集）、8小節程度

[問題例] G dur ト長調 $\frac{2}{2}$ 拍子 8小節



5. 副科実技（ピアノ）

(1) J. S. バッハ『平均律クラヴィーア曲集』第1巻、第2巻より任意の1曲（プレリュードとフーガ）

(2) 古典派ソナタより任意の1曲（第1楽章または終楽章。専攻別曲目記入票に楽章を明記すること）

※いずれも暗譜で演奏すること。

6. 専攻実技

(1) 聴音：旋律（単旋律、二声および四声）の書き取り（四声は木管四重奏の録音による）

(2) 全ての音部記号を用いた旋律の初見視唱

(3) 簡単な旋律のピアノ初見弾き歌い

(4) スコアリーディング（2管編成程度の管弦楽曲）

(5) 指揮実技

(イ) 2管編成程度の管弦楽曲の初見指揮（演奏は2台のピアノによる）

(ロ) モーツァルト：交響曲第36番 ハ長調「リンツ」K. 425（演奏は2台のピアノとヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスによる）

(ハ) ベートーヴェン：『エグモント』序曲（演奏は2台のピアノによる）

※(ロ)(ハ)は暗譜で演奏（指揮）すること。

(6) 演奏実技（ピアノを含む任意の楽器を演奏。無伴奏。声楽不可）

(7) 和声（バス、ソプラノ課題「初級程度」1時間）

(8) 小論文（1時間）

(9) 口述試問